



下後方向からの内部



大仏左上方向からの外部

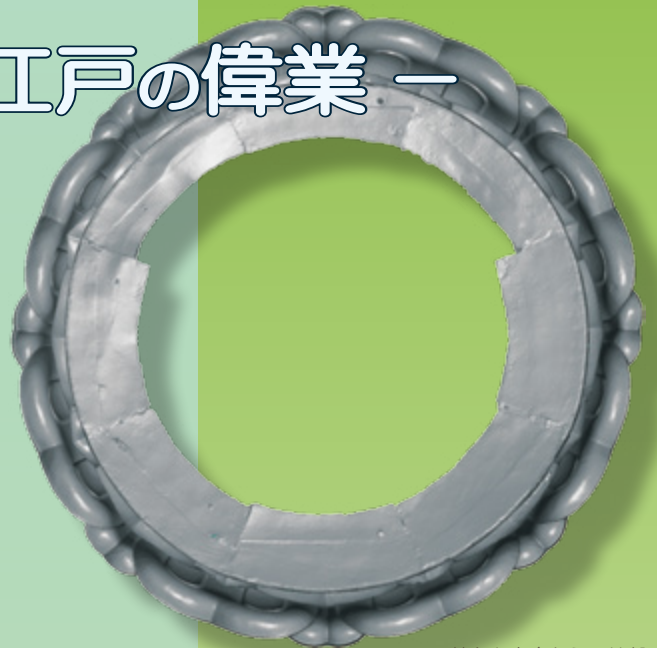


後方向からの内部

— 解き明かされた江戸の偉業 —



斜め下方向からの内部



蓮台上方向からの外部

中山大仏（法華経寺）修理調査 現地報告会

日時 平成29年9月3日（日曜日）雨天決行
 会場 法華経寺 千葉県市川市中山2-10-1 電話 047-334-3433
 受付 12:30～13:00（法華経寺 客殿前にて）
 解説 13:00～15:00（客殿にて）
 現地説明 15:20～16:30（大仏前にて）

説明者 日塔和彦（市川市文化財保護審議会委員）、三船温尚（富山大学芸術文化学部教授）
 主催 法華経寺・富山大学三船研究室 対象 研究者および関係者
 問合せ mifune@tad.u-toyama.ac.jp 申込 不要

法華経寺の銅造釈迦如来坐像（中山大仏）は、享保4年（1719年）に江戸神田住人太田駿河守藤原正義によって铸造されました。法量は、像高3.4m、蓮台高1m、膝張2.8m、大仏重量2.4t、蓮台重量1.5tで、複数の部品を鑄掛技法（分鑄、鑄接）の使い分けによって現地で組み上げています。今回の大仏修理に伴い、青銅の成分分析、鑄型土の成分分析、像の内外面の3Dスキャン、鑄造痕跡の調査などをおこない、江戸中期の大型鑄造品の製作技法のほぼ全容が明らかになりました。また、面部や胸部、手などの肉身部には金箔が施されていたことが判明しました。報告会当日は、大仏、蓮台の内部が観察でき、江戸中期の青銅品組み立て技術の生々しい痕跡が確認できます。

鑄造技術の面からは、原型の材質痕跡、部品鑄造の意外な位置の湯口、部品組み立て手順と工夫、螺髪のパターン化の目的など、300年前の工人の技術と造形が随所に見られ、これらを詳細にご説明いたします。